

国立教育政策研究所 令和6年度教育研究公開シンポジウム

教育データの「見える化」に向けた取組 ～明日からできる教育データ利活用～

令和6年11月9日
堺市教育センター 能力開発課
課長 品川 隆一

堺市の概要

■ 学校園数、児童生徒数等（令和6年5月1日現在）

	校園数	学級数	園児児童 生徒数
幼稚園	4	14	255
小学校	92	1,783	39,074
中学校	43	752	19,921
高等学校	1	29	705
支援学校	3	109	475
合計	143	2,687	60,430



「堺市HPより」

■ 堺市の位置



「堺市HPより」

本日の発表内容

- 1 本市のデータ利活用のコンセプト
- 2 具体的な実践事例

本日の発表内容

- 1 本市のデータ利活用のコンセプト
- 2 具体的な実践事例

1 データ利活用のコンセプト

教育データの「見える化」?

学校現場での教育データ活用の実際は？

学校は・・・

- ① 日々、教育課程を進めていく必要がある（←これは大切）
- ② 教員は日々、データではなく、目の前の子どもの姿を見取っている（←これも大切）
- ③ データ分析する時間がない・難しい（←働き方改革?）

教育データ利活用の課題も含めた本市の取組

～めざす方向性～

- ①見やすさ
- ②わかりやすさ
- ③できそう「感」





データの「見える化」からはじめてみる

学校が元気になる分析



教育活動の効果が実感でき、改善する部分が見えること

そのために大切なことは、

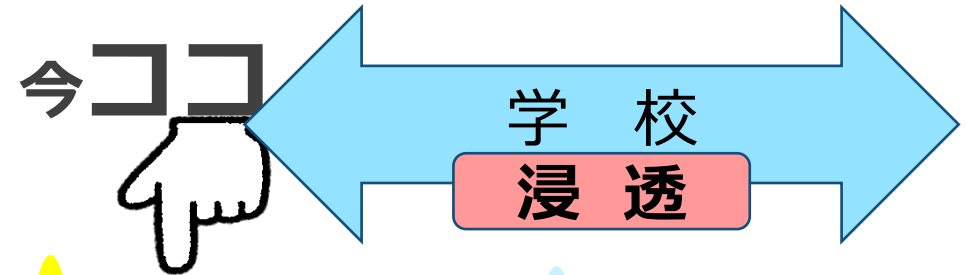
-  学校教育に関わる全ての人々が、めざしているものについて語るができること
-  教育活動がめざしているものの実現状況を確認できること

各種調査の分析を行うのは、なぜでしょうか。

私たちは日々子どもと向き合う中で、「1学期に比べて成長したよね」「こんなことができるようになったよ」と子どもの成長を仲間と確認し合うことで、自身の取組を振り返り、明日への活力につながるという経験をされているのではないのでしょうか。

本資料は、個々の子どもや個々の先生の姿を紡ぎながら、学年としてまた学校として取り組んでいることを実感できる「教職員が元気になる分析」をめざした取組の実現に向けた内容で構成しています。

教育データ利活用にむけたSTEP



やってみよう！

STEP 01

意識の醸成

- ・データ利活用の方向性の確認
- ・分析方針の検討
- ・分析資料の検討

つくってみよう！

STEP 02

教育施策の立案

- ・データ分析から授業改善に向けた施策の推進

「学びのコンパス」
「分析のしおり」
「総合学力プロフィール」

よりそってみよう！

STEP 03

学校園の取組の推進

- ・分析資料をもとにデータの見える化

「校内指導主事派遣」
「学力向上に向けた研修会の実施」

ゆだねてみよう！

STEP 04

学校園の自走

- ・データ利活用に向けて「自走」する学校

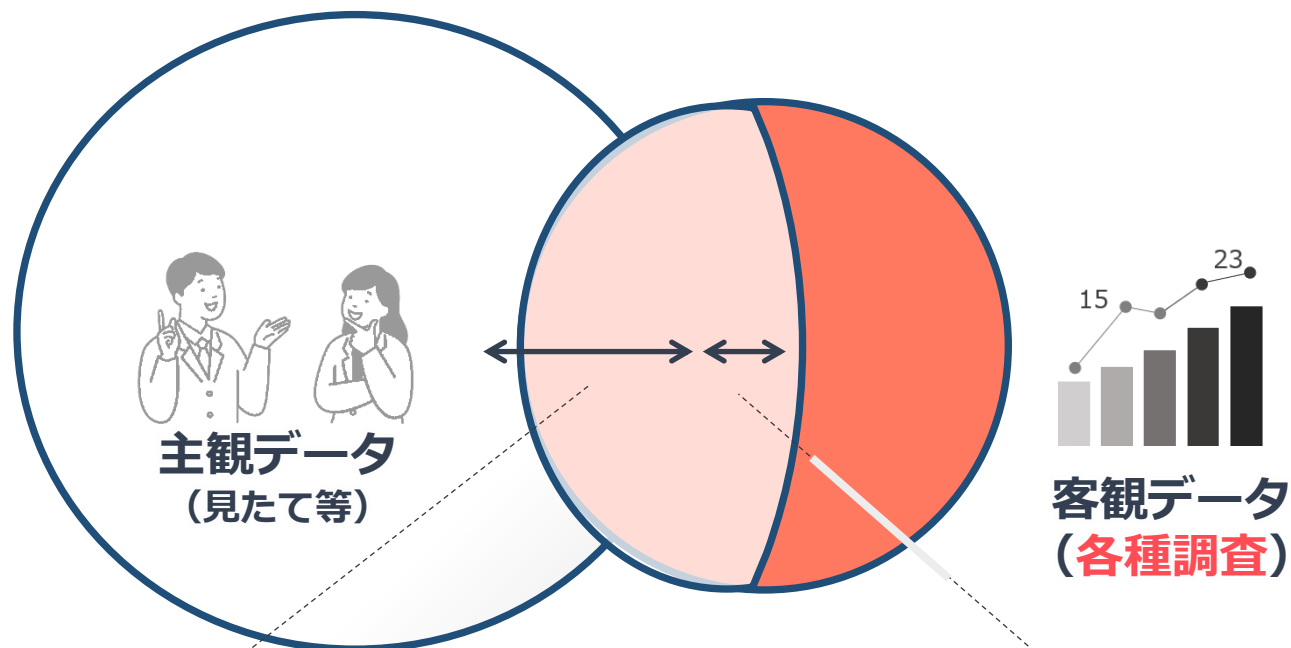
「校内研修での活用」
「各種校内委員会での課題分析等」

具体化

具体化

具体化

データ利活用を「気づき」に変える



教員の見たて等の精度が高く、
教員の自信につながる部分と捉えられる

教員の見たて等の**新たな気づき**
につながる部分と捉えられる

教員の「見たて」を軽視しているわけではない。

データをデータで終わらせない

「各種学力調査結果分析から見えてきた本市の課題」

- ① **情報を複数の情報を関連付けて考える問題の正答率の低さ**
- ② **無解答率の高さ**



**この課題分析を具体的な取組に転換し、
取組をもって学校に寄り添う**

教育データを活用した教育活動への取組

データ活用から見えてきたこと ～教育活動の展開～

対応



学習集団に対する
授業改善の
アプローチ

課題解決能力の育成について

学習集団に対する授業改善のアプローチが必要ではないかと考えられる。

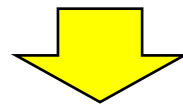
対応



特性に応じた
学び方への
支援

粘り強さを育むことについて

子ども一人ひとりの特性に応じた、学び方への支援の充実が必要であると考えられる。



本市の「新たな学び」の生成へ

3. 調査結果を活用した教育活動への取組

「教員の授業改善にむけて」



【資料1】



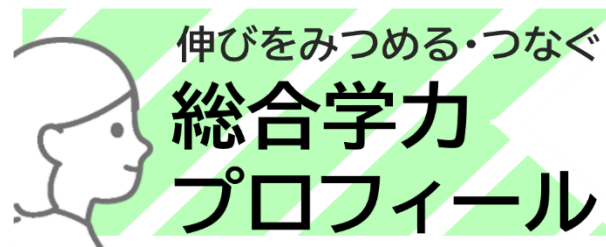
【資料2】



「子どもの学び方の習得にむけて」



【資料3】



【資料4】

みんなの学び方もわかる

各種調査の

個人票のみかた

【資料5】

ドリルパークで
学ぶ力を育てよう
シート



本日の発表内容

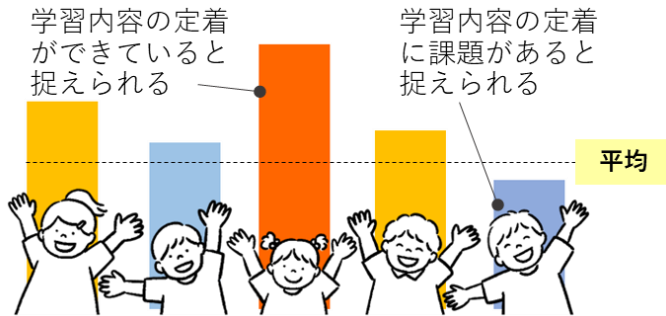
1 本市のデータ利活用のコンセプト

2 具体的な実践事例

データ利活用の「見える化」に向けて

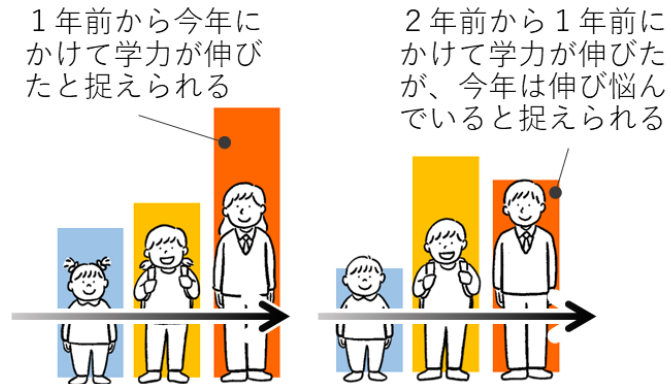
各種調査を実施する意義

「各種学力調査の分類」



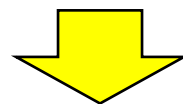
集団としての子どもたちの 学びの状況の把握

- ・ 全国学力・学習状況調査
- ・ 大阪府小学生すくすくウォッチ
- ・ 大阪府中学生チャレンジテスト



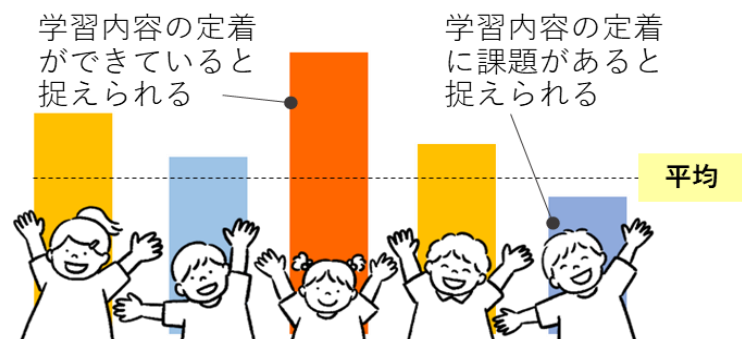
個々の子どもたちの 学び（伸び）の状況の把握

- ・ 堺市学力学習状況調査
(IRT調査)



得られる結果データの内容が違うので学校への示し方も変える


「**集団**に着目した分析」



集団としての子どもたちの学びの状況の把握

- ・ 全国学力・学習状況調査
- ・ 大阪府小学生すくすくウォッチ
- ・ 大阪府中学生チャレンジテスト

「最も伝えたいことは・・・」

- 
- ① 本市全体の課題の特徴
 - ② 授業改善に向けた方針



日々の授業との関連を

焦点化してわかりやすく伝える

全国学力・学習状況調査結果から示した特徴的な内容

特徴（1）問題の形式と無解答率の関係

小学校	国語	無解答率		算数	無解答率	
	問題数	平均	最大（最小）	問題数	平均	最大（最小）
 選択式	9	4.7	13.5 (2.1)	5	3.3	6.3 (1.0)
 短答式	2	6.6	7.5 (5.6)	7	2.8	4.9 (1.2)
 記述式	3	8.0	17.4 (8.2)	4	6.7	15.6 (3.2)

中学校	国語	無解答率		数学	無解答率		英語	無解答率	
	問題数	平均	最大（最小）	問題数	平均	最大（最小）	問題数	平均	最大（最小）
 選択式	7	0.4	0.6 (0.2)	4	0.7	1.3 (0.2)	12	0.5	1.0 (0.30)
 短答式	4	6.9	12.8 (2.3)	6	9.8	16.8 (0.4)	3	17.5	20.0
 記述式	4	14.1	24.0 (5.1)	5	23.7	30.3 (15.9)	2	29.7	34.2 (25.2)

- ① 小学校は、選択式の無解答率が中学校に比べて、高い。
- ② 中学校は、記述式の無解答率が高い。



つまずき解消のための
分析のしおり (令和4年度)

正答率の表示
全国学力・学習状況調査 (小国)

平均正答率 A層(70%) D層(8%)

【問3二】 37%

問題

出題の趣旨

文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。
(第5、6学年) B書くことカ

つまずきポイント

- できていないこと
【文章2】のよさについて、【伝え合いの様子の一部】と結び付けて考えることができていない。
- 誤答の一つの要因
文章のよいところを見付けるためには、文章全体の構成や展開が明確になっているかなどの観点で読むということが分かっていないことが要因と考えられる。
- つまずき解消のポイント
説明的な文章を読む際には、筆者の論の進め方や文章全体の構成のよいところを見付け、話し合う経験を授業の中で積み重ねる必要がある。この経験が、実際に自分が書く際に生かされるよう留意する。書くことにおいては、自分が書いた文章を読み返す際に文章全体の構成や書き表し方に着目して、推敲できるようにする。

【教材の最後に書かれている『たいせつ』に書いてあるように、自分が考えたことにふさわしい言葉を選んで書くことが大切だとわかったよ。】

学年 **【つながりのある主な学習内容】**
学年ごとのつまずきの解消ポイント

小1・2
【1年:すきなもの、なかに(P.82~85)等】【2年:こんなもの、見つけたよ(丸、点、かぎ)(上P.80~85)】等
理由の言い表し方を身に付け、句読点やかぎかっこを使う際のまきりが分かるように指導する。
文章のよさについては、友だちの文章を読んで「はじめて知ったこと」や「分かりやすかったところ」「順序の分かりやすさ」など、観点をもって感想を交流できるようにする。

小3・4
【3年:これがわたしのお気に入り(下P.109~113)】等
【4年:もしものときにそなえよう(下P.105~111)】等
書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合う。書き手が書こうとしたことが明確に表現されているところを見付けることが重要となる。例えば、学習過程の各段階のメモを共有し、書く目的を確認し合うなどが考えられる。

小5・6
【5年:あなたはこう考える(P.174~179)等】【6年:大切にしたい言葉(P.176~180)】等
文章全体の構成や展開が明確になっているかなど文章に対する感想や意見を伝え合う。
読め力のある意見文を書くためには、実際にあったことや、それらの記録(具体例・引用など)と、自分の考えを区別して書くことよ。
読後をもとに何かを伝えるときには、読後と伝えたいことの結びつきを考えて、言葉を選んでように指導する。

中1
【1年:助言を自分の文章に生かそう(P.186~187)】等
根拠の明確さなどについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだすこと。

中2
【2年:魅力を効果的に伝えよう(P.184~185)等】
表現の工夫とその効果などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだすこと。

中3
【3年:情報を読み取って文章を書く(P.172~173)】等
論理の展開などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだすこと。



つまずき解消のための 分析のしおり の特徴 【資料1】

- 各学年の授業者向けの資料
- 各種調査のうち以下の2問を対象に分析
 - (1) A層とD層の正答率の差が大きい問題
 - (2) 全体的に正答率の低い問題
- 資料の左側：D層の誤答理由をもとに、つまずきの原因と、つまずき解消のポイントを示した。
- 資料の右側：つまずき解消のため、つながりのある各学年の単元と教科書のページ数を記載し、指導の系統性を示した。

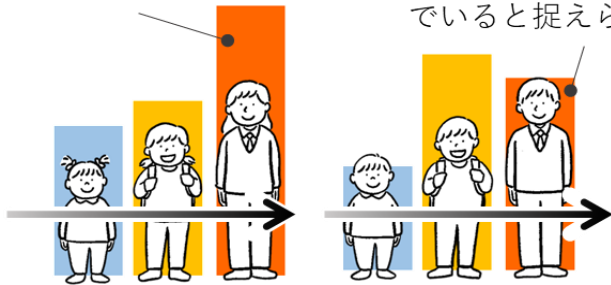
想定している
教員の姿

各学年の授業者が、印刷した「分析のしおり」を教科書の該当ページにはさみ込み、教科書を開いた際に、課題解消に向けた授業づくりについて考える姿

「個人ののびに着目した分析」

1年前から今年にかけて学力が伸びたと捉えられる

2年前から1年前にかけて学力が伸びたが、今年は伸び悩んでいると捉えられる



個々の子どもたちの
学び（伸び）の状況の把握

・ 堺市学力学習状況調査
（IRT調査）

「最も伝えたいことは・・・」

- ① 経年での学力の変容
- ② 子どもの学び方の習得について

経年での学力の変容を

可視化してわかりやすく伝える

「個人票のみかた」

（令和5年度 全国学力・学習状況調査）個人票のみかた 堺市教育センター

「個人票」は4月に実施した全国学力・学習状況調査のあなたの回答をまとめたものです。原簿をもとに、これからのように学習を進めていくを考え、実践してみる機会にしましょう。保護者の皆さまにおかれましては、お子さまのがんばりを認め、これからのがんばりを認めることについて励ましていただきますようお願いいたします。

全国学力・学習・生活状況調査（個人票）

あなたと同じ正答数の人が全国にどのくらいいるかわかります。

● 学習指導要領の内容や問題の状況について、学習者の回答を切り取り

◆ 問題の形式（はたか式など）

全国の状況

あなた

0 1 2 3 4

同 同 同 同 同

自分に合った勉強のしかたについて考えよう・やってみよう

— 堺の小学6年生、中学3年生に贈りました。 —

「『自分に合った勉強のしかた』について教えてください」

自分もやっていること、やってみたいことを チェック 回しよう

どの教科をするか決めてなるべく自分の決めた時間内で勉強や宿題をするようにしている。（小6）

大事なところを赤ペン・青えんぴつで書いている。（小6）

時間を決めて、時間内に解けるかをやってみて、解けなかったらヒントをみて考えて、それでもわからない時は、まわりの人に聞いてみる。（小6）

例えば、国語の勉強を10ページしたら10分休み、算数を10ページしたら、10分休みのように切り替えを大事にした勉強をしています。（小6）

まずは、自分のさらいな教科から始め、分からないところは周りの人に聞いてもらいその後、自分の好きな教科をやります。（中3）

学校で配られたワークのまちがったところをもう一回やり直す。（中3）

まちがちな問題のやり直しと、似た問題を解くようにしている。（中3）

「は、勉強をすることが大切だと思っているため、『まず必ずする』というのに視点を向けた勉強をしています。」

堺市教育センター



みんなの学び方もわかる

全国学力・学習状況調査
個人票のみかた

の特徴 【資料4】

- 小学6年生、中学3年生と保護者向けの資料
- 全国学力・学習状況調査（個人票）の見方を掲載
- 1学期に実施した児童生徒調査の質問のうち、「自分に合った勉強の仕方」の子どもの回答を掲載

（例）どの教科をするか決めてなるべく自分の決めた時間内で勉強や宿題をするようにしている。（小6）

（例）勉強の内容も大切だけど、まずは、勉強をすることが大切だと思っているため、くつろぎながら勉強するなど「まず必ずする」というのに視点を向けた勉強をしている。（中3）

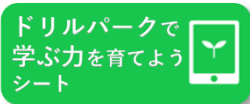
想定している
子どもの姿

個人票の返却をきっかけとして、子ども自身が「自分に合った学び方」について考え、実践につなげようとする姿



堺市の学習面の課題への対応

学年	課題内容	対応状況	対応内容	対応期間	対応ページ
1	(1) 算数・数学の基礎的な知識・技能の習得	○	04 算数ドリル集	1月 1日	04.25.01-08
2	(1) 算数・数学の基礎的な知識・技能の習得	○	04 算数ドリル集	1月 1日	04.25.01-08
3	(1) 算数・数学の基礎的な知識・技能の習得	○	04 算数ドリル集	1月 1日	04.25.01-08
4	(1) 算数・数学の基礎的な知識・技能の習得	○	04 算数ドリル集	1月 1日	04.25.01-08



の特徴 【資料5】

- 小学6年生、中学3年生向けの資料
- 全国学調（算数、数学）に対応したドリルパーク問題を示したプリント

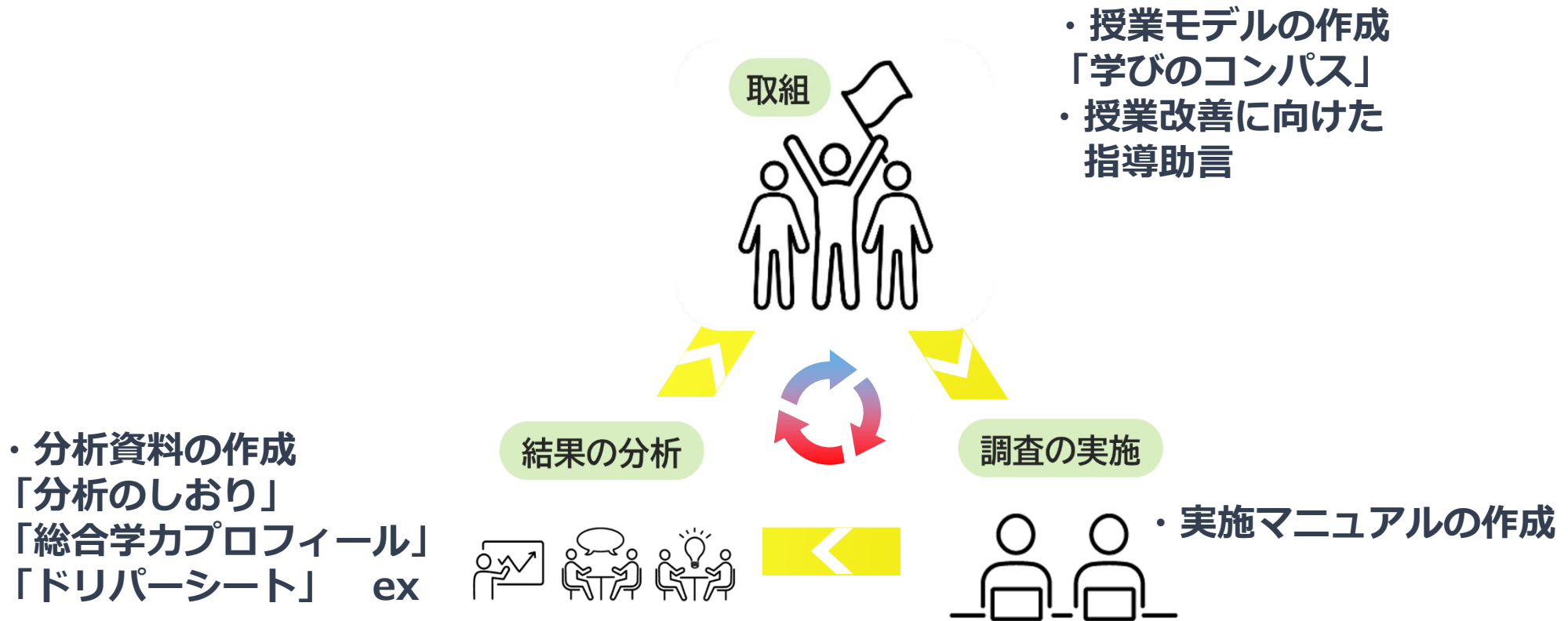


- (1) 子どもが全国学調の個人票と照らし合わせて、シートを確認する。
- (2) 子どもが、シートをもとに「まとめ問題」に取り組む。
- (3) AIが、「まとめ問題」の実施状況に合わせて、子ども一人ひとりに合わせた「おすすめ問題」を作成する。
- (4) 子どもが「おすすめ問題」に取り組む。

想定している
子どもの姿

AIによる一人ひとりに合わせた「おすすめ問題」に取り組む中で、子どもが自分の課題や成長に気づく姿

データ利活用のサイクル



教育データの利活用に向けて

各種調査実施から取組までのサイクルを確立する

おわりに

データ分析の「専門家」でなくても

できることが**必ず**ある。



教育データで
わくわく、ドキドキ

ひとづくり
まなび
ゆめ

ご清聴ありがとうございました。

